

## 1. 工法の概要

一般ケーブルに用いられるKTB工法のアンカーヘッドを基本としている。42頁に表記してある。ヘッド、リング、ナット、カッパーなどをロングサイズにして、設計示様に対応している。定着体の頭部の構造については、クサビ型、ネジ付ヘッドのマンション内埋込み型などがあり、テンドンの引込み時に利便を与えるように工夫されている。ストランドの標準的な防錆方法としては、保護管内をセメント系グラウト、エポキシ系グラウト、グリース系防錆(アンボンドケーブル)を行なうほ

か、新しく開発されたエポキシ系塗料による完全塗装型PCストランド(SCストランド)を用いることができる。

## 2. P C 鋼材

一般ケーブルと同様な示様である。ストランドの防錆方法としては、SCストランドの使用が有効である。

斜長ケーブルの構造としては、裸ストランド、亜鉛メッキストランド、アンボンドストランド、SCストランド等を外管(鋼製またはポリエチレン製)を使用し、内部のストランドを保護している。その他、グラウトなどを用いて防錆をしている。

構造およびジャッキの緊張手順などを、図-1~4に示す。

- ① マンション
- ② ナット
- ③ 壓着グリップ(またはクサビ)
- ④ エンドプレート
- ⑤ ブラグ
- ⑥ φ15.2Bストランド
- ⑦ アンカーヘッド
- ⑧ キャップ
- ⑨ スリーブパイプ
- ⑩ 養生管

- ① マンション
- ② アンカーヘッド
- ③ ナット
- ④ クサビ
- ⑤ キャップ
- ⑥ アンカーヘッド
- ⑦ ブラグ
- ⑧ φ15.2Bストランド
- ⑨ 外套管
- ⑩ 鋼管
- ⑪ グラウト
- ⑫ ダンバー

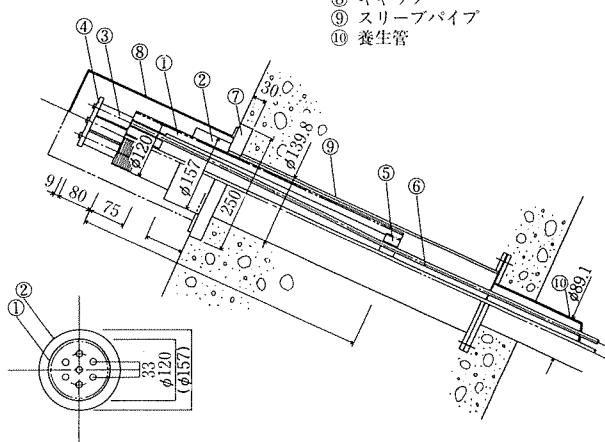


図-1 圧着式定着体

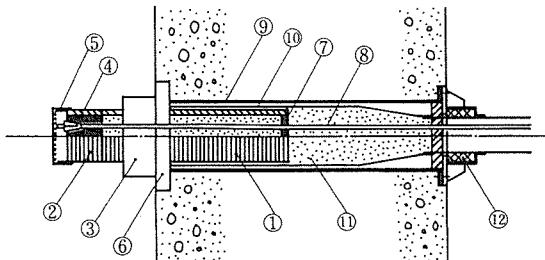


図-2 クサビ式定着体

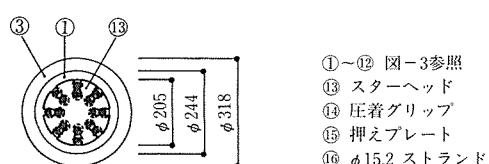
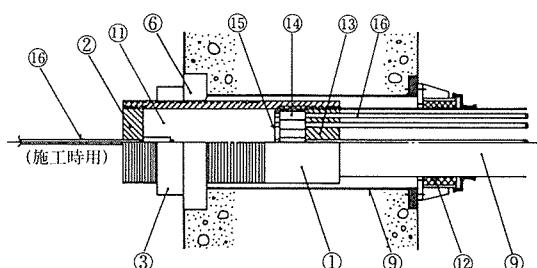


図-3 スター・ヘッド式定着体

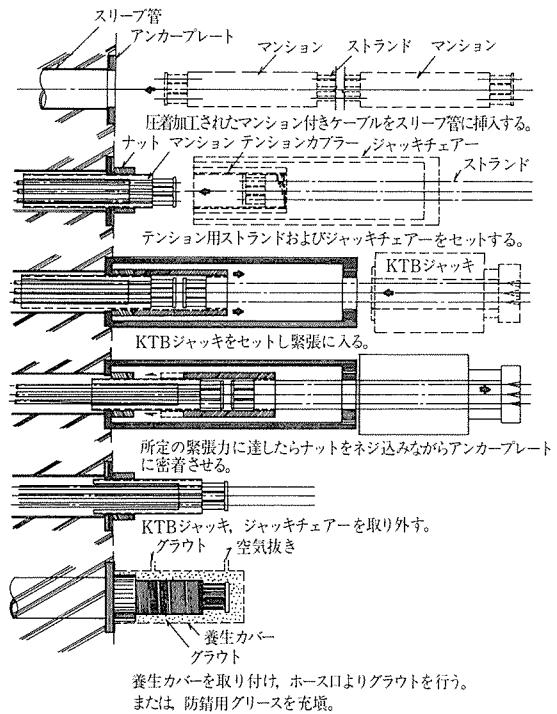


図-4 緊張手順一例